

5・4. 分娩受け入れ不可能あるいは行わないと答えられた方のみお答えください。

近隣に受け入れ可能な施設はありますか。

- a ある 施設名 ()
- b ない

6・1. HIV陽性妊婦の分娩様式について、経膈分娩は可能と考えますか

- a 可能
- b 不可能
- c 分からない

6・2. 不可能、分からないと答えられた方のみ、その理由をお聞かせください（複数回答可）

- a 産科医の協力が得られない
- b 小児科医の協力が得られない
- c 助産師、看護スタッフの協力が得られない
- d 病院の体制としての問題
- e その他 ()

7. 貴院では小児科を標榜されていますか

- a 標榜している b 標榜していない

標榜していると答えられた方は下記の質問にお答えください。また標榜していないと答えられた方は終了です。ご協力ありがとうございました。

8. 貴院にNICUはありますか？

- a ある b ない

9・1. 貴院ではHIV陽性妊婦から生まれた新生児の受け入れは可能ですか。

- a 受け入れの経験がある (1. 1例 2. 2～4例 3. 5例以上)
- b 経験はないが可能である
- c 過去に経験はあるが現在は不可能である
- d 不可能である、あるは行わない

9・2. 受け入れ経験あり、あるいは可能と答えられた方のみお答えください。

- a 全ての週数で受け入れ可能である
- b () 週以上、() g 以上の分娩
- c 一時的なら可能

平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
(エイズ対策政策研究事業)

「HIV 感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班
研究分担報告書

研究分担課題名：HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育

研究分担者：塚原 優己 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 産科・医長
研究協力者：谷口 晴記 三重県立総合医療センター産婦人科・副院長
大金 美和 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターケア支援室・
看護師
井上 孝実 葵鐘会ローズベルクリニック・副理事長
山田 里佳 愛知厚生連海南病院産婦人科・医師
源河いくみ 東京ミッドタウンクリニック内科・医師
千田 時弘 紀南病院産婦人科・医師
渡邊 英恵 名古屋医療センター看護部・副看護師長
源 名保美 国立国際医療研究センター産婦人科病棟・看護師長
羽柴知恵子 名古屋医療センター外来・副看護師長
廣瀬 紀子 長野県看護大学・助教
笠原 弥恵 仙台医療センター母子医療センター・助産師
矢永由里子 慶應義塾大学感染制御センター・講師
佐野 貴子 神奈川県衛生研究所微生物部・主任研究員
鈴木ひとみ 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター・コーディネ
ーターナース
長與由紀子 九州医療センター感染症対策室・HIV 専任看護師
中條 真澄 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター産科・研究補助員

研究要旨：

当研究分担班の研究目的ならびに方法は、

- ① 市民公開講座の企画や他の団体や機関によるセミナーとの連携を行い、研究成果を広く周知することにより、国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を図ること。
- ② 妊婦の HIV スクリーニング検査や妊婦健診の重要性を周知させるため、行政を含めた関連機関との連携を図ること。

の 2 点である。

①に関しては、「第 22 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜」(8/7-9:かながわ県民センター)および「第 5 回 AIDS 文化フォーラム in 京都」(10/3-4:同志社大学新町キャンパス)に参加し、一般市民参加型の公開講座を開催し、市民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上をめざした。

②に関して、従来作成してきた一般妊婦向け HIV 検査説明リーフレット「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のためにー」および HIV スクリーニング陽性者向け解説リーフレット「妊婦 HIV スクリーニング検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ」を最新の知見に基づき改訂し

た。

A.研究目的

① 市民公開講座の企画や他の団体や機関によるセミナーとの連携を行い、研究成果を広く周知することにより、国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を図る。

② 妊婦の HIV スクリーニング検査や妊婦健診の重要性を周知させるため、行政を含めた関連機関との連携を図る。

以上が当研究分担班の研究目的である。

B.研究方法

①一般市民参加型の HIV/AIDS 啓発活動に共同し、

- ・性感染症全般に関する現状及び予防策の紹介

- ・性感染症のひとつである HIV 感染症の現状と予防策の紹介

- ・HIV 母子感染の現状と予防策の紹介

等に関する講習会を開催する。具体的には、例年全国各地域（横浜、京都など）で行われる AIDS 文化フォーラムへの参加を予定している。今年度は、「第 22 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜」（8/7-9:かながわ県民センター）および「第 5 回 AIDS 文化フォーラム in 京都」（10/3-4:同志社大学新町キャンパス）に参加する。

②3 年前に改訂した、一般妊婦向け HIV 検査説明リーフレット「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のためにー」および HIV スクリーニング陽性者向け解説リーフレット「妊婦 HIV スクリーニング検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ」を、HIV 母子感染を取り巻く最近の知見や、厚労科研 HIV 母子感染研究班の最新のデータに基づき改訂する。

（倫理面への配慮）

一般社会の集団を対象に行われる研究であ

るが、その集団に含まれる HIV 陽性者に対する倫理的配慮に関しては、プライバシーの保護はもとより細心の注意をはらう。

C.研究結果

①-1

「第 22 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜」（8/7-9:かながわ県民センター）に参加した。タイトルは「性感染症と女性」、「講義とディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について考えましょう。」というキャッチコピーで市民自由参加の公開講座を開催した。

（発表内容）現在、HIV 母子感染予防対策はほぼ確立し、早期から医療介入ができれば垂直感染の危険性はほとんどない。しかし、HIV の認知度が高まったにも関わらず、その当事者への関わり方に関しては、医療者も含め、未だ根強く偏見が残っている。また、HIV 感染と同様の経路で感染する STI も多く、若年層の感染拡大や感染者の不妊など問題は尽きない。

そこで今回、「性感染症と女性」というテーマで自分とパートナーの健康について考える機会となるよう厚労省 HIV 母子感染研究班のデータを用いながら、聴講者参加型の講義形式で発表を行った。

進行役からの質問に対し参加者がキーパネル？を押して回答すると、簡単なリモコン操作で回答をすることで、質問に対する参加者の反応をダイレクトに表示し、回答状況をリアルタイムに集計できる「リモコン型レスポンスアナライザシステム」を活用回答数が即時に集計され表示される。これを提示しながら講義を進めることで、参加者自身が自分の知識の確認をしながら講義内容を理解できたように思う。また、女性の性感染症に焦

点を当てたワークショップとしていたが、講義終了後には男性の立場からの不妊治療に対する質問や高校生から受けた相談への返答の仕方などの質問を受け、具体的な対応策について情報提供や意見交換もでき、テーマの枠を超えた時間を過ごすことができた。産婦人科医師による講義と参加者全員によるディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について再考して頂いた。

①-2

「第5回 AIDS 文化フォーラム in 京都」(10/3-4:同志社大学新町キャンパス)に参加した。タイトルは「女性の健康について考えよう!」、「性感染症、女性の病気、知らないから怖いのかも?いつもは聞けない病気の話、お医者さんに聞いてみよう!!」をキャッチコピーに市民自由参加の公開講座を開催した。

(発表内容) HIV を含む、性感染症、婦人科疾患、女性の健康について、グループディスカッションを挟みながら産婦人科医師からの講義を行なった。グループディスカッションでは、性感染症や、感染後の妊娠・出産について、学生、養護教諭、看護師など様々な立場や職種が一緒に考えを深めることができた。講義終了後は、産婦人科医師に直接質問できる時間となり、参加者から、普段聞けない性感染症についての疑問や質問が多数あり、活発な意見交換がなされた。今後、参加者自身が今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていき、正しい知識や予防への意識の普及に繋げていけることに期待したい。

②本年度改訂した一般妊婦向け HIV 検査説明リーフレット「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために-」および HIV スクリーニング陽性者向け解説リーフレット「妊婦 HIV スクリーニング検査(一次検査)で結果が陽性だった方へ」は、関係者が容易に活用で

きるように、当研究班ホームページ、エイズ予防財団ホームページなどに PDF ファイルを掲載のうえ、全国のエイズ拠点病院、保健所・保健センターなどにサンプルを送付し紹介する。

D.考察

①今年度参加した AIDS 文化フォーラムでは参加者 20 名程度と少数ではあったが、自発的意思で参加くださった出席者自身が、今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていき、正しい知識や予防への意識の普及に繋げていけることに期待している。来年度は、今年参加した横浜や京都の AIDS 文化フォーラムでの一般参加者の増加を目指して発表内容を検討したい。さらに、他の地方で開催されている AIDS 文化フォーラム、具体的には AIDS 文化フォーラム in 佐賀、AIDS 文化フォーラム in 陸前高田などの市民参加型イベントにも積極的に参加することを検討したい。また、HIV/AIDS に特化したイベントとは別の視点から、これから生殖年齢を迎える若者をターゲットにした啓発活動も有効と考えられることから、各地の様々な大学が開催する学園祭への参加も検討していきたい。

②一般妊婦向け HIV 検査説明リーフレット

「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために-」および HIV スクリーニング陽性者向け解説リーフレット「妊婦 HIV スクリーニング検査(一次検査)で結果が陽性だった方へ」は、年間 100 万人以上の妊婦に対し妊娠初期検査の一環として行われている HIV 検査の一般妊婦向け解説書として、容易な文体で解りやすく解説されている。HIV 母子感染に関わる様々な進歩に伴い今後も改訂を行う予定である。

E.結論

国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識は未だ十分とはいえず、今後とも HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育を続ける必要がある。

G. 研究業績

刊行物

- 1) 塚原優己：垂直感染．金澤一郎 永井良三 総編集．今日の診断指針第 7 版．医学書院．東京．2015．P1845-46.
- 2) 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業(エイズ対策政策研究事業)「HIV 感染妊婦に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班・研究分担課題「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班：ご妊娠おめでとうございます あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために－：東京．2015
- 3) 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業(エイズ対策政策研究事業)「HIV 感染妊婦に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班・研究分担課題「HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班：妊婦 HIV 検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ：東京．2015

1. 論文発表

(英文)

- 1) Takeshi Nishijima, Misao Takano, Shoko Matsumoto, Miki Koyama, Yuko Sugino, Miwa Ogane, Kazuko Ikeda, Yoshimi Kikuchi, Shinichi Oka, Hiroyuki Gatanaga. What Triggers a Diagnosis of HIV Infection in the Tokyo Metropolitan Area? Implications for Preventing the Spread of HIV Infection

in Japan. PLOS ONE November 25, 2015.

- 2) Suzuki S, Tanaka M, Matsuda H, Tsukahara Y, Kuribayashi Y, Sekizawa A, Miyazaki R, Nishii O, Nakai A, Mizutani N, Kumamoto Y, Kinoshita K.: Current Status of the Screening of Chlamydia trachomatis Infection Among Japanese Pregnant Women. J Clin Med Res. 2015 Jul; 7(7): 582-584.

(和文)

- 1) 蓮尾泰之, 明城光三, 和田裕一, 鈴木智子, 大沢昌二, 林公一, 五味渕秀人, 塚原優己：HIV 感染妊婦に対する受け入れ施設及び地域連携体制に関する全国調査．日本エイズ学会誌．2015：17(3)：167-173.
- 2) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信．HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—．日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.
- 3) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾．HIV 郵送検査の現状と展望．日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.
- 4) 久地井寿哉、柿沼章子、岩野友里、藤谷順子、大金美和、大平勝美、木村哲．ICF (国際生活機能分類) コアセット 7 項目版尺度の信頼性と因子妥当性の検証—血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者を対象とした分析—．The Journal of AIDS Research Vol.17 No.2 (P90-96) 2015.
- 5) 大金美和、小山美紀、木村哲．療養先検討シート．平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究」，2015 年 3 月．

- 6) 大金美和、鈴木ひとみ、木村哲. 情報収集シート/療養アセスメントシート (医療) (福祉・介護). 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究」, 2015 年 3 月.
- 7) 塚原優己: 5) 常位胎盤早期剥離を早期に診断するためには?. 日産婦誌. 2015; 67(11):2571-2574.
- 8) 棚橋あかり, 関口将軌, 太崎友紀子, 須山文緒, 高橋健, 大寺由佳, 小澤克典, 佐々木愛子, 三井真理, 和田誠司, 塚原優己, 左合治彦: 全身状態が安定して経過し産褥 1 日目に診断に至った不全子宮破裂の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2015;64(3):460-464.

2. 学会発表 (海外)

(国内)

- 1) 塚原優己: 日本産婦人科医会共同プログラム 5. 事例からみた脳性まひ発症の原因と予防対策: 産科医療補償制度再発防止に関する報告書から 5) 常位胎盤早期剥離を早期に診断するためには?. 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015.4.12
- 2) 杉浦敦, 喜多恒和, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 松田秀雄, 高野政志, 桃原祥人, 佐久本薫, 太田寛, 稲葉憲之, 和田裕一, 塚原優己: 近年の HIV 感染妊娠とその臨床的・疫学的背景に関する検討. 日本産科婦人科学会第 67 回学術講演会, 横浜, 2015.04.10
- 3) 吉野直人, 杉浦敦, 高橋尚子, 外川正生, 稲葉憲之, 和田裕一, 塚原優己, 喜多恒

和: 近年の HIV 感染妊娠とその臨床的・疫学的背景に関する検討. 第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23

- 4) 杉浦敦, 石橋理子, 市田宏司, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 高野政志, 桃原祥人, 小林裕幸, 佐久本薫, 太田寛, 藤田綾, 高橋尚子, 吉野直人, 田中瑞恵, 谷口晴記, 蓮尾泰之, 塚原優己, 外川正生, 喜多恒和: HIV 感染判明後の妊娠に関する検討. 第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23
- 5) 喜多恒和, 杉浦敦, 石橋理子, 藤田綾, 中西美紗緒, 箕浦茂樹, 松田秀雄, 高野政志, 桃原祥人, 小林裕幸, 佐久本薫, 太田寛, 多田和美, 吉野直人, 高橋尚子, 外川正生, 田中瑞恵, 谷口晴記, 蓮尾泰之, 塚原優己, 和田裕一, 稲葉憲之: 「わが国において HIV 感染妊娠の経膈分娩は推奨できるのか?」. 第 32 回日本産婦人科感染症学会学術集会, 宇都宮, 2015.05.23
- 6) 大金美和. はじめよう! HIV 感染血友病等患者の医療と福祉の連携. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム 「HIV 感染血友病患者の長期療養～医療と生活の充実を目指して～」, 東京. 2015 年 12 月 1 日.
- 7) 鈴木ひとみ, 大金美和, 小山美紀, 阿部直美, 谷口紅, 木下真里, 杉野祐子, 池田和子, 久地井寿哉, 岩野友里, 柿沼章子, 大平勝美, 湯永博之, 菊池嘉, 岡慎一. HIV 感染血友病患者の長期療養に向けた支援～情報収集と療養アセスメントシートの検討から～, 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 8) 大金美和, 小山美紀, 鈴木ひとみ, 阿部

- 直美, 木下真里, 谷口紅, 杉野祐子, 池田和子, 久地井寿哉, 岩野友里, 柿沼章子, 大平勝美, 瀧永博之, 菊池嘉, 岡慎一. HIV 感染血友病患者の療養先検討に向けた支援プロトコルの作成. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 9) 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 今井光信, 加藤真吾. 民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 10) 近藤真規子, 佐野貴子, 井戸田一朗, 山中晃, 川畑拓也, 森 治代, 岩室紳也, 吉村幸浩, 立川夏夫, 今井光信. 新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 11) 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆, 横幕能行. あいち医療通訳システム活用による外国人 HIV 陽性者支援. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 3 日
- 12) 浅海里帆, 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 横幕能行. 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンターとの連携による生活困窮 HIV 陽性者支援. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 2 日
- 13) 横幕能行, 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆. 地域行政と連携した慢性疾患管理システムの構築. 第 69 回国立病院総合医学会 北海道 10 月 2 日
- 14) 羽柴知恵子, 伊藤杏奈, 浅海里帆, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. 地域行政と連携した慢性疾患管理システムの構築に関する検討? HIV 陽性者支援における行政サービス活用の効果?. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 15) 長与由紀子, 城崎真弓, 小川良子, 城下由衣, 木下一枝, 池田有里, 渡部恵子, 武内阿味, 大野稔子, 成田月子, 杉野祐子, 伊藤ひとみ, 川口玲, 高山次代, 羽柴知恵子, 下司有加, 大金美和, 池田和子. エイズ診療拠点病院 HIV 担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS 看護体制に関する調査」結果から (その 2) ~患者からの相談と課題、支援ニーズについて~. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 11 月 30 日
- 16) 小川良子, 城下由衣, 木下一枝, 池田有里, 長与由紀子, 城崎真弓, 渡部恵子, 武内阿味, 大野稔子, 成田月子, 杉野祐子, 伊藤ひとみ, 川口玲, 高山次代, 羽柴知恵子, 下司有加, 大金美和, 池田和子. エイズ診療拠点病院 HIV 担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS 看護体制に関する調査」結果から (その 1) ~患者ケア実施に関する現状と課題~. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 11 月 30 日
- 17) 松岡亜由子, 石原真理, 森祐子, 羽柴知恵子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. HIV 感染者における知的機能と ASD 傾向との関連. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 18) 石原真理, 羽柴知恵子, 森祐子, 松岡亜由子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. HIV 陽性者における自殺に関する調査. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2015 年 12 月 1 日
- 19) 福島直子, 加藤万理, 戸上博昭, 平野淳, 羽柴知恵子, 蜂谷敦子, 岩谷靖雅, 横幕能行. 名古屋医療センターにおける透析導入時及び腎移植時の抗 HIV 剤の選択と有効性に関する調査. 第 29 回日本エイ

ズ学会学術集会・総会．東京，2015年12月1日

3.その他 なし

- 20) 関口将軌，犬塚悠美，田中里美，三井真理，谷垣伸治，小澤伸晃，塚原優己，左合治彦：当センターにおける小児がん経験者の妊娠・分娩についての検討．第67回日本産科婦人科学会学術講演会，横浜，2015.4.10
- 21) 太崎友紀子，小川浩平，須山文緒，犬塚悠美，田中里美，塚原優己，左合治彦：骨盤位外回転術の術中・術直後の緊急帝王切開分娩の検討．第67回日本産科婦人科学会学術講演会，横浜，2015.4.11
- 22) 大寺由佳，谷垣伸治，芝田恵，犬塚悠美，鈴木朋，小川浩平，塚原優己，久保隆彦，左合治彦：正常血圧妊婦における妊娠初期血圧と妊娠高血圧，妊娠高血圧腎症発症に関する検討．第67回日本産科婦人科学会学術講演会，横浜，2015.4.12

3. 講演

- 1) 公開講座「性感染症と女性」：第22回AIDS文化フォーラム in 横浜(8/7・9:かながわ県民センター) 内容：講義とディスカッションを通じ、性感染症、自分とパートナーの健康について考えましょう。
- 2) 公開講座「女性の健康について考えよう！」：第5回AIDS文化フォーラム in 京都(10/3・4:同志社大学新町キャンパス) 内容：性感染症、女性の病気、知らないから怖いのかも？いつもは聞けない病気の話、お医者さんに聞いてみよう！！
- 3)

H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし

妊婦HIV検査(一次検査)で 結果が陽性だった方へ

一次検査の陽性は「感染している」という意味ではありません。



Q 「陽性」というのはどういう意味？

一次検査の陽性は「HIV感染」を意味しているのではなく、「感染している可能性が完全には否定できない」という程度に理解してください。ほとんどの方は、このあとの二次検査でHIVに感染していないことが判明します。しかし、陽性の方の中には、ごくわずかですがHIVに感染している方も含まれています。

Q 一次検査「陽性」のうち、 実際に感染しているのは何人ぐらい？

これまでの一次検査の結果を集計すると、1万人に31人の割合で「陽性」と出ます。しかし統計によると日本国内の妊婦さんのHIV感染は多く見積もっても1万人に1人なので「陽性」の31人のうち30人は「偽陽性」(実際には感染していない)ということになります。

Q なぜ、感染していないのに「陽性」と出るの？

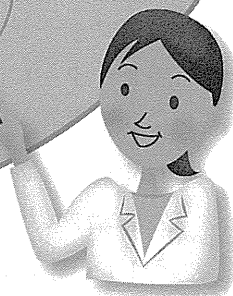
理由ははっきりとはわかっていません。しかしHIV検査に限らず、ウイルスや細菌に感染しているかどうかを調べる検査は100%正確というわけにはいかないのです。

1/10,000 というごくわずかな感染を見逃がさないためには、どうしても一定の「偽陽性」が生じることをご理解ください。なお、現在、「偽陽性」が少なくなるような方法を検討中です。

一次検査1万人中

一次検査陽性31人

感染者1人
(二次検査で判明)



Q 感染している可能性がほとんどないのなら、 わざわざ二次検査を受けなくても いいのでは？

可能性はほとんどゼロであっても、絶対に感染していないとは言い切れません。必ず二次検査を受けて、感染しているかいないかをはっきりさせてください。これはあなたのためだけではなく、お腹の赤ちゃんのためにも必要なことなのです。

感染していた場合に

感染に
気づかないでいると

..... 赤ちゃんの約30%に感染する

..... お母さんの治療も遅れる

妊娠初期に
感染がわかると

..... 赤ちゃんの感染をほぼ阻止できる

..... お母さんも適切な治療が受けられる

このような理由から、必ず確認検査(二次検査)を受けてください

確認検査（二次検査）の受け方

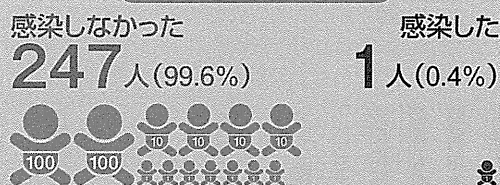
- 確認検査（二次検査）では、一次検査で陽性だった方を対象に、HIVに感染しているかどうかを判定する精密検査を行います。
- 確認検査を実施していないクリニックや病院もありますので、その場合は一次検査を担当した医師が確認検査のできる医療機関をご紹介します。
- 二次検査の結果がわかるまでには1～2週間かかります。
- 二次検査の結果はご本人に直接お伝えします。



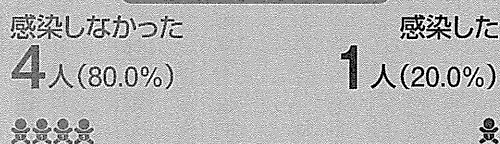
もし感染していたら

- 感染がわかったら、すぐに治療を開始します。治療法はめざましい進歩をとげました。現在では、きちんとした治療を受けていればエイズ発症を予防することができます。もう「HIV感染＝死に至る病」ではありません。
- もちろん出産もできます。出産は分娩時の赤ちゃんへの感染を防ぐため、帝王切開が推奨されています。
- 日常生活の中で、周りの人に感染することはありません。血液や体液の取り扱いに注意していただくほかは、今までと変わりなく生活することができます。
- お母さんは妊娠中から、赤ちゃんは生後6週間、抗ウイルス薬を服用します。
- 母乳からの感染を防ぐため、人工栄養（粉ミルク）を用います。

帝王切開分娩では



経膣分娩では



平成26年度厚生労働省研究班報告による



安心のサポート体制

HIV感染者の社会生活全般を支援するために、医療・福祉・保健分野でさまざまなサービスが用意されています。たとえば、福祉制度を利用すれば、医療費の負担を軽減することができます。申請方法など詳しいことは、市区町村の担当窓口や病院のソーシャルワーカーなどが相談にのってくれます。カウンセラーを派遣してくれる自治体もあります。

このほかにも、ボランティア団体・感染者の交流会などが、悩みごとの相談や情報交換の場を提供しています。

HIVについてのご相談は

・エイズ予防財団電話相談：(フリーダイヤル) 0120-177-812
(携帯電話から) 03-5259-1815

HIVについて知りたいときには

- ・エイズ予防情報ネット(API-Net)：
<http://api-net.jfap.or.jp/>
 - ・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ：
<http://hivboshi.org/>
 - ・HIV検査相談マップ：<http://www.hivkensa.com>
- ★この文書はインターネットからもダウンロードできます。
- ・エイズ予防情報ネット(API-Net)⇒マニュアル・ガイドライン⇒
 - ・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ⇒マニュアル・ガイドライン⇒
- 「妊婦HIV検査（一次検査）で結果が陽性だった方へ」

編集/発行

平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業(エイズ対策政策研究事業)「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班(研究代表者:奈良県総合医療センター・喜多恒和)分担研究「HIV感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班(研究分担者:国立成育医療研究センター・塚原優己)

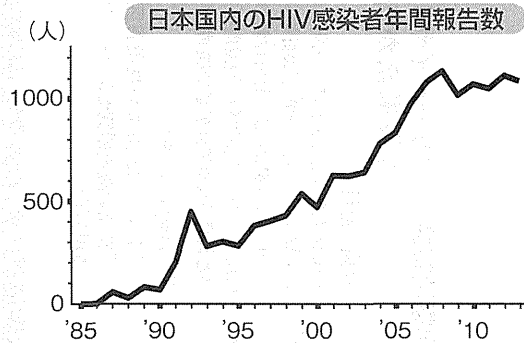
問い合わせ先

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター産科塚原優己

2016.1.4000

日本のHIV感染の動向

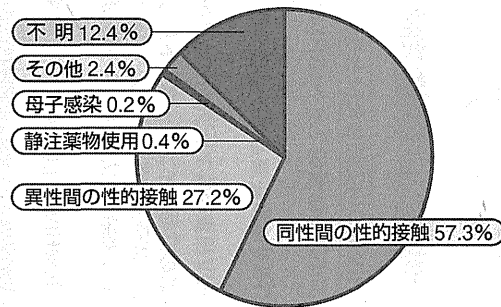
- 日本の感染者数は諸外国に比べて、まだ、きわめて少数ですが、先進国のなかでは唯一、増加傾向にあります。



厚生労働省エイズ動向委員会：平成26年エイズ発生動向年報による

- HIVの感染経路は8割以上が性的接触です。女性の感染は若い人に多い傾向にあります。

HIVの感染経路 (2014年までの累計)



厚生労働省エイズ動向委員会：平成26年エイズ発生動向年報による

安心のサポート体制

HIV感染者の社会生活全般を支援するために、医療・福祉・保健分野でさまざまなサービスが用意されています。たとえば、福祉制度を利用すれば、医療費の負担を軽くすることができます。申請方法など

詳しいことは、市区町村の担当窓口や病院のソーシャルワーカーなどが相談にのってくれます。カウンセラーを派遣してくれる自治体もあります。

このほかにも、ボランティア団体・感染者の交流会などが、悩みごとの相談や情報交換の場を提供しています。

HIVについて知りたいときには

- ・エイズ予防情報ネット(API-Net)：
<http://api-net.jfap.or.jp/>
- ・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ：
<http://hivboshi.org/>
- ・HIV検査相談マップ：<http://www.hivkensa.com>
- ・エイズ予防財団電話相談：(フリーダイヤル) 0120-177-812
(携帯電話から) 03-5259-1815

■このリーフレットはインターネットからもダウンロードできます。

- ・エイズ予防情報ネット(API-Net)⇒マニュアル・ガイドライン⇒
 - ・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ⇒マニュアル・リーフレット⇒
- 「あなた自身の健康と赤ちゃんの健やかな誕生のために」

編集／発行

平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業(エイズ対策政策研究事業)「HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班(研究代表者：奈良県総合医療センター・喜多恒和)分担研究「HIV感染妊娠に関する国民への啓発と教育」班(研究分担者：国立成育医療研究センター・塚原優己)

〈問い合わせ先〉

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター産科
塚原優己

2016.1.4000

ご妊娠おめでとうございます

あなた自身の健康と
赤ちゃんの
健やかな誕生のために—

当院では
妊娠初期検査の一環として
HIV検査を実施しています



どうして妊婦さんのHIV検査が重要なのか

エイズの原因となるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、検査をしないと感染しているかどうかわかりません。

感染している妊婦さんが

感染に
気づかないでいると…

- お母さんが治療を受ける機会が失われる
- 赤ちゃんも感染する可能性が高い
(感染率=約30%)

妊娠初期に
感染がわかると…

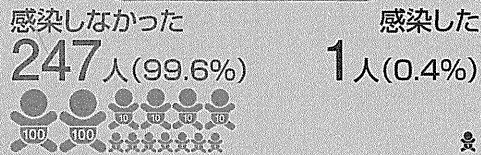
- お母さんが適切な治療を受けられる
- 赤ちゃんの感染をほぼ100%防ぐことができる
(感染率=約0.4%)

母子感染の予防方法

- 1 妊娠中から抗ウイルス薬の服用を開始する
(赤ちゃんも生後～6週間、服用する)
- 2 分娩は帝王切開にする
- 3 赤ちゃんは粉ミルクで育てる
(母乳からの感染を防ぐため)

出産方法による母子感染率の違い(2000年以後)

帝王切開分娩では



経膈分娩では



平成26年度厚生労働省研究班報告による

妊婦HIV検査の手順

一次検査

(スクリーニング検査)

採血して、血液中のウイルスやHIV抗体の有無を調べます。

陰性

HIVには感染していません。

陽性

HIVに感染している可能性はほとんどありませんが、ごくまれにHIVに感染している人もいますので、二次検査を受けてください。

一次検査の陽性は「感染している」という意味ではありません。

- 感染しているかいないかは、二次検査で初めてわかります。必ず二次検査を受けてください。
- 二次検査をどこの医療機関で受けるかは、担当の医師とご相談ください。

二次検査

(確認検査)

より精密な検査を行い、感染しているかいないかを判定します。

★検査結果は本人に直接お伝えします。

★検査にかかる費用や結果がわかるまでの日数は、担当の医師にお聞きください。

偽陽性について

★一次検査の「陽性」の約95%は、本当は陰性なのに間違って陽性と出る「偽陽性」です。

★「偽陽性」の割合などの詳しい説明は「妊婦HIV検査(一次検査)で結果が陽性だった方へ」*をご覧ください。

*インターネットで公開しています。

・エイズ予防情報ネット(API-Net)

⇒マニュアル・ガイドライン⇒

・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ

⇒マニュアル・リーフレット⇒

★日本国内でHIVに感染している妊婦さんは1万人に1人です。一次検査は、このわずかな感染を見落とさないように実施しています。その際、感染していない人も一定の割合で陽性となってしまうことをご理解ください。

もし、HIVに感染していたら

- 治療法はめざましい進歩をとげました。現在では、きちんとした治療さえ受けていれば、エイズ発症を予防することができます。
- 日常生活の中でまわりの人に感染することはありません。血液や体液の取り扱いに注意していただくほかは、今までと変わりなく生活することができます。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
喜多恒和、 外川正生、 吉野直人	HIV 母子感染全国 調査研究報告書 平成 26 年度	全国調査 集計局	HIV 母子感染 全国調査研 究報告書 平 成 26 年度		岩手	2015	
外川正生	小児の HIV 感染症	水口雅他	今日の小児 治療指針 第 16 版	医学書院	東京	2015	338-340
外川正生	抗 HIV 治療ガイ ドライン、14 章、 小児、青少年期に 於ける抗 HIV 療 法		平成 26 年度 厚生労働科 学研究費補 助金（エイ ズ対策政策 研究事業） HIV 感染症 及びその合 併症の課題 を克服する 研究班		東京	2015	134-147
外川正生	3 章小児伝染性疾 患 インフルエ ンザ	五十嵐隆 /監 日本小児 総合医療 施設協議 会小児感 染管理ネ ットワー ク/編	小児感染対 策マニユ アル	じほう	東京	2015	118-121
塚原優己	【Ⅱ. 疾患編】21. 妊産婦・女性性器 疾患 垂直感染	金澤一郎 永井良三	今日の診断 指針第 7 版	医学書院	東京	2015	1845-46
田中瑞恵	後天性免疫不全 症		小児科診療 ガイドライ ン 第 3 版	総合医学 社	東京	in press	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中西美紗緒、矢野 哲	TPHA 陽性のみで梅毒感 染妊婦として取り扱う べからず	周産期医学	45 増刊 号	37-38	2015
中西美紗緒、矢野 哲	HIV 抗体スクリーニン グ検査陽性のみで妊娠 中絶を勧めてはいけな い	周産期医学	45 増刊 号	44-47	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
外川正生	HIV 陽性母体の児へ生後 6 ヶ月以内に生ワクチン投与するべからず	周産期医学	45 増刊号	872-874	2015
福島 裕子、井上 健、久保勇記、奥野高裕、石井真美、小林庸次、外川正生、真鍋隆夫、山崎夏維、岡田恵子、原 純一	進行性脳炎と考えられていたが次児の診断により家族性血球貪食性リンパ組織球症の可能性が示唆された 1 剖検例	臨床病理	63	799-804	2015
國行秀一、松村泰宏、平田 央、前川直輝、外川正生	難治性てんかん患者に対する臭化カリウム投与中に生じた臭素疹の 1 例	臨床皮膚科	69	643-647	2015
天羽清子、外川正生	腸チフス・パラチフスの小児例	日本渡航医学会誌	8	1-4	2015
外川正生	【骨格筋症候群(第 2 版)-その他の神経筋疾患を含めて-】[上] 炎症性ミオパチー 感染性筋炎 ウイルス性筋炎 その他のウイルスによる心筋炎	日本臨床	別冊骨格筋症候群(上)	241-244	2015
九鬼一郎、川脇 壽、堀野朝子、井上岳司、温井めぐみ、岡崎伸、富和清隆、天羽清子、外川正生、塩見正司	急性脳炎, 急性脳症に対する高用量 erythropoietin 治療の臨床的検討	脳と発達	47	32-36	2015
蓮尾泰之、明城光三、和田裕一、鈴木智子、大沢昌二、林公一、五味淵秀人、塚原優己	HIV 感染妊婦に対する受け入れ施設および地域連携体制に関する全国調査	日本エイズ学会誌	17	167-173	2015
佐野貴子、加藤真吾、今井光信	HIV 無料・匿名検査相談の役割 —保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—	日本エイズ学会誌	17(3)	125-132	2015
須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾	HIV 郵送検査の現状と展望	日本エイズ学会誌	17(3)	138-142	2015
久地井寿哉、柿沼章子、岩野友里、藤谷順子、大金美和、大平勝美、木村哲.	ICF(国際生活機能分類)コアセット 7 項目版尺度の信頼性と因子妥当性の検証—血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者を対象とした分析—.	日本エイズ学会誌	17(2)	90-96	2015

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Takeshi Nishijima, Misao Takano, Shoko Matsumoto, Miki Koyama, Yuko Sugino, Miwa Ogane, Kazuko Ikeda, Yoshimi Kikuchi, Shinichi Oka, Hiroyuki Gatanaga.	What Triggers a Diagnosis of HIV Infection in the Tokyo Metropolitan Area? Implications for Preventing the Spread of HIV Infection in Japan.	PLOS ONE	November 25,		2015
Shunji Suzuki, Masanobu Tanaka, Hideo Matsuda, Yuki Tsukahara, Yasushi Kuribayashi, Akihiko Sekizawa, Ryoichiro Miyazaki, Osamu Nishii, Akihito Nakai, Nobuko Mizutani, Yoshiaki Kumamoto, and Katsuyuki Kinoshitaa	Current Status of the Screening of Chlamydia trachomatis Infection Among Japanese Pregnant Women	J Clin Med Res.	7(7)	582-584	2015
本田真梨、田中瑞恵、 赤平百絵、細川真一、 七野浩之、佐藤典子、 松下竹次、木内英	HIV 感染母体から出生 した児に対する 12 時間 毎 AZT 予防投与の試み	日本小児科 学会雑誌			in press

